



フードバンク活動で
SDGsを

自治体・企業・事業所・学校・自治会など
地域でご活躍の皆さん

情報交換会のお知らせ

2021

はじめてみませんか フードドライブ・食品寄贈

2021年 11月 24日(水)
14:00～16:30

先進事例紹介と情報交換
フードバンクの現状と今後の取り組み
(冷凍食品チャレンジなど)

参加者募集中
無料 ZOOM

下記アドレスにお申込み
の方に招待URLをお送り
します

ogiwara@fb-kanagawa.com

■ 報告者 ■ 数字は予定登壇順

1 SDGアクションとしての
フードドライブ
神奈川県いのち・
未来戦略本部室
沖田弓弦さん



SDG
s

2 16支店でのフー
ドドライブに行政・
自治会も協力
中栄信用金庫
原田和彦さん

2 飢餓を
ゼロに



社会
貢献

3 フードドライブ・
食支援における
NPOとの協力
鎌倉市
生活福祉課
寺山 明さん

地域
活性

4 食品寄贈の
取り組み
日本食研ホール
ディング(株)
お客様相談室
宇高良治さん

困窮
世帯
支援

5 フードドライブが
社員の誇りに
(株)イトーヨーカ堂
CSR・SDG s
推進部
大日方晃子さん
横浜別所店
松島孝義さん

CSR

地域
貢献

6 フードバンクの現状と
今後の取り組み
フードバンクかながわ
藤田 誠

12 つくる責任
つかう責任



「もったいない」を「分かち合い」・「ありがとう」へ

主催:(公社)フードバンクかながわ

横浜市金沢区富岡東2-4-45

Tel 045-349-5803

フードバンク活動(寄贈・フードドライブ・食支援)で SDGsの具体的な取り組みを

まだ食べられるのに廃棄される食品が日本全体で約600万トン、食品製造・外食産業等の過程で廃棄される食品は324万トン、家庭から出る食品ロスは276万トンあります。

一方平成30年（2018年）国民生活基礎調査によると、日本の相対的貧困率は15.6%子どもの貧困率は13.5%でした。7人に一人の子どもが、大多数の子どもが持っていたり体験したりする物や機会に恵まれない〈相対的貧困〉状態にあるといわれます。

この食品ロスと分ちあいをつなぐのがフードバンクです。



日本食研ホールディングス(株)より
ビーフンのご寄贈



2020年フードバンクかながわに寄贈された210㌧のうち8割が災害備蓄品を含む企業からの寄贈です。企業寄贈は同じ食品が数百～1万個と大量に届くことが特徴で、同じ食品をそろえることが必要な食品提供で広く活用されています。

それに対し、市民が家庭で不要、使いきれなった食品を寄付する活動をフードドライブと言います。フードドライブは市民が市・区役所、店舗などの回収拠点に食品を持込み、フードバンクに届く寄贈活動です。回収拠点は268か所に拡がっています。食用油、サバ缶などの缶詰類、たれ類、レトルトカレーなど調理に役立つもの、子どもが喜びそうなクッキー、フルーツ缶、人気キャラクターの付いたお菓子などさまざまな食品の寄贈が特徴です。

食品は子ども食堂、学生、ひとり親世帯などの食品を必要とする人々へ届けられます。

食品ロスを削減し、分ちあうフードバンク活動はSDGsの具体的な取り組みです。



中栄信金店舗内でのフードドライブ



イトヨーカドー横浜別所店の
フードドライブ



県庁でのフードドライブ